

株式会社常磐植物化学研究所 サステナビリティレポート 2020

Tokiwa Phytochemical Sustainability Report 2020



対象期間: 2019年4月～2020年3月 発行日: 2020年10月16日

目次

目次	1
社会への貢献を目指して	3
サステナビリティ基本理念	4
具体的取り組みと貢献するSDGs	5
常磐植物化学研究所の事業が貢献するSDGs	
【製品を通じたSDGsへの貢献】	6
【薬用植物の栽培】	6
【「植物化学」発展のための取り組み】	7
創業70周年記念事業	
【創業70周年記念誌の刊行】	8
【創業70周年記念シンポジウム】	9
教育への取り組み	
【小学生向け実験教室】	10
【高校生向け「佐倉アカデミア」】	10
【大学院での講義】	11
【海外の大学との交流】	11
社会・環境への取り組み	
【周辺美化活動】	12
【防災訓練】	12
【常磐薬祖神社への参拝】	12
【地域消防団への参加】	12
【ハーブ園を通じたお客様との対話】	13
【佐倉チューリップフェスタへの協賛】	13
【薬用植物に関する情報提供】	13

社会・環境への取り組み(エコアクション21(EA21))

【エコ・アクション21とは】	14
【環境方針】	14
【登録事業所の概要・環境経営組織図】	15
【環境活動の取組計画と評価】	16・17
【2020年度 環境活動計画】	18
【環境関連法規制等の遵守状況】	18
【代表者による評価と見直し】	18
【環境活動取り組み例】	19

働きやすい環境づくり

【女性の活躍支援】	20
【ワークライフバランス】	20
【キャリア支援】	20
【人と人との繋がる職場づくり】	20
【夢応援制度】	20
【新入社員歓迎tokiwaフェスタ】	21
【クラブ活動(軟式野球部・茶道部)】	21
【社員旅行】	21
【70周年記念富士登山】	21
【年末レクリエーション】	21

労働安全・衛生への取り組み

【労働安全衛生に関わるマネジメント体制】	22
【薬用植物の栽培】	22
【水質に配慮した生産活動】	22
【グリーン調達・グリーン購入】	22
【マイ箸・マイコップの使用】	22

トップメッセージ

【持続可能な発展を目指して】

常磐植物化学研究所のサステナビリティレポート2020をご覧ください、誠にありがとうございます。

植物と人を繋ぐ重要な役割を担うのが、植物化学成分(ファイトケミカルズ)です。そして、植物のちからを引き出し、新たな価値を創造し、人々の健康と豊かな暮らしに役立てていくことが、私たち、常磐植物化学研究所の使命です。

同時に、植物に生かされていることに気づき、感謝し、人と植物が共存共栄していくことで、本来の人と社会の幸福、持続可能な発展があると考えています。

2008年に環境経営システム導入来、2009年から社会・環境報告書、2014年からCSR Reportとして、10年間に渡り、社会・環境活動を報告して参りました。

2020年より、ESGやSDGsの指針を事業活動に取り入れ、植物と人の持続可能な社会づくりを意識し、サステナビリティレポートとして事業活動を報告して参ります。ご高覧いただければ幸いです。

今後も事業活動を通じて植物化学と地域社会の発展に貢献して参ります。



株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

「設立趣意書」

本社は薬学博士松尾仁氏を中心とする研究陣の豫ねて理想とする植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを念願として設立するものである。

したがって本社の事業は単に営利のみを目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。

若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこととなれば、本社設立の趣旨は達成されたに近い。

昭和二十四年八月
株式会社常磐植物化学研究所 設立発起人

「経営理念」

私たちは、
植物の力を引き出し、新たな価値を創造します。
最高の技術で、最高の製品を製造します。
社員の幸福と社会の発展に貢献します。
そして、植物に感謝し、生かされる会社になります。

サステナビリティ基本理念

植物のちからを引き出し、新たな価値を創造し、人々の健康的な暮らしと社会の発展に貢献します。植物資源の調達から、植物化学研究、製品化まで、地球環境、社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指します。また、薬用植物の栽培と教育を通じて、人と植物の明るい未来づくりに貢献します。

常磐植物化学研究所におけるSDGsへの取り組み

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」にて全会一致で採択された2030年までの新たな「持続可能な開発目標」で、17の目標と169のターゲットから構成されています。当社は、2020年度より新たにサステナビリティ統括室を設立しました。様々な事業・CSR活動を通してSDGsの実現に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



具体的取り組みと貢献するSDGs

	貢献するSDGs	具体的な取り組み
常磐植物化学 研究所の事業		<ul style="list-style-type: none"> ・製品を通じたSDGs ・薬用植物の栽培 ・「植物化学」発展のための取り組み
創業70周年記 念事業		<ul style="list-style-type: none"> ・創業70周年記念誌 ・創業70周年記念シンポジウム
教育への取り 組み		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生向け実験教室 ・高校生向け「佐倉アカデミア」 他
社会・環境への 取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション21 ・地域周辺美化活動 ・佐倉ハーブ園 他
働きやすい環 境づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・女性の活躍支援 ・ワークライフバランス 他
労働安全・衛生 への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生状況確保のための教育 ・健康の保持促進と快適な職場環境の形成

常磐植物化学研究所の事業が貢献するSDGs



製品を通じたSDGsへの貢献



当社で製造している医薬品原薬、化粧品原料、食品原料は、医薬品、医薬部外品、化粧品、機能性表示食品、健康食品など、人々の健康に寄与する様々な商品に配合されています。tokiwaの名前が消費者の皆様が目や耳に入ることはないかもしれませんが、tokiwa製品は陰ながら、人々の健康に貢献しています。



薬用植物の栽培



(佐倉ハーブ園)

薬用植物や生活に役立つハーブなどを集め、約5000m²のハーブ園を設け、無料で広く市民に公開しています。皆様に見ていただけるようになってから18年目になりました。

(日本イチョウファーム)

新地町に広大な栽培農場を持つ日本イチョウファームは、長年にわたる栽培技術の研究と無農薬・化学肥料を用いない有機農業で、最高品質のイチョウ葉を生産しています。

その中でも、研究栽培農場の面積は2.0ヘクタールと最も大きく、高品種のイチョウ葉を生産するための試験栽培をすすめています。



常磐植物化学研究所の事業が貢献するSDGs



「植物化学」発展のための取り組み



常磐植物化学研究所は植物化学の発展への貢献活動の一環として、関連する学会、機関、大学等への参画、協賛、共同研究等を行っています。

【研究機関、大学との共同研究】

(研究機関) 国立医薬品食品衛生研究所、かずさ DNA 研究所、国立精神・神経研究医療センター、国立医療長寿健康センター、富山県薬事研究所、東京都医学研究所

(大学等) 東京大学、大阪大学、京都大学、北里大学、星薬科大学、東京医科歯科大学、帝京大学、学習院大学、新潟大学、昭和薬科大学、福井県立大学 等

【自社研究報告】

- ・Quality Evaluation and Characterization of Fractions with Biological Activity from Ephedra Herb Extract and Ephedrine Alkaloids-Free Ephedra Herb Extract
- ・Effect of Continuous Ingestion of Kaempferia parviflora Extract (SIRTMAX®)-containing Diet on Glycemic Control and Safety Evaluation of Excessive Intake
- ・植物由来抽出物を使ったタウ凝集阻害剤のスクリーニング
- ・Potential Therapeutic Agents, Polymethoxylated Flavones Isolated from Kaempferia parviflora for Cataract Prevention through Inhibition of Matrix Metalloproteinase-9 in Lens Epithelial Cells
- ・Analgesic Effects of Ephedra Herb Extract, Ephedrine Alkaloids-Free Ephedra Herb Extract, Ephedrine, and Pseudoephedrine on Formalin-Induced Pain
- ・Analgesic Effects of Ephedra Herb Extract, Ephedrine Alkaloids-Free Ephedra Herb Extract, Ephedrine, and Pseudoephedrine on Formalin-Induced Pain
- ・日本薬局方・定量用試薬の規格化を目的とした定量 NMR を用いたエボジアミン及びマンギフェリンの絶対純度の測定
- ・臨床研究によるファイトケミカルの機能性開発 一睡眠改善素材の開発
- ・イチヨウ葉エキスによる糖尿病性血管機能障害への影響
- ・Tyrosol Reduces Amyloid- β Oligomer Neurotoxicity and Alleviates Synaptic, Oxidative, and Cognitive Disturbances in Alzheimer's Disease Model Mice
- ・定量 NMR 法における試料調製条件の一考察 : 吸湿性試薬の場合

【植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛】

日本学術振興会、植物化学シンポジウム(植物化学研究会)、日本生薬学会、日本薬史学会、メタボロームシンポジウム、日本認知症学会、日本平滑筋学会、日本分析化学会有機微量分析研究懇談会、日本薬学会、日本抗加齢医学会、日本農芸化学会、日本フードファクター学会、薬用植物栽培研究会、和漢医薬学会

【植物化学に関連する各種加盟団体】

(公社) 東京生薬協会、(公社) 東京医薬品工業協会、日本漢方生薬製剤協会、日本医薬品原薬工業会、(一社) 千葉県製薬協会、(一社) 日本食品添加物協会、(公財) 日本健康・栄養食品協会、(一社) 日本栄養評議会、(一社) 日本健康食品規格協会、化粧品原料協会、甘草工業懇話会、ステビア工業会、(一社) 日本ブルーベリー協会、千葉県食品産業協議会、(一社) 健康産業協議会

創業70周年記念事業

当社は1949年(昭和24年)10月8日に創業し、昨年で70周年を迎えました。元・厚生省東京衛生試験所所長の松尾仁が創業者の一人である当社は、当時血管強化の薬効が期待されていたルチン開発からスタートしました。そして天然物への需要が高まる中、生薬甘草の有効成分であるグリチルリチンの医薬品製造承認の取得、代替甘味料として高含有量のグリチルリチンを食品分野へ供給するなど、時代の要求にいち早く応じてまいりました。1980年代には健康食品分野の成長を見据え、世界で初めて市場にイチヨウ葉エキスを供給するとともに、現在も大きな市場であるブルーベリーエキス(ビルベリーエキス)の市場形成を担ってきました。

「研究所」の社名の通り、製造のみならず、その研究成果を社会に還元することを目指す創業理念のもと、多くの大学・研究機関とネットワークを構築してまいりました。70年にわたって植物とともに歩んできた当社として、昨年は学術分野の一層の発展に寄与すべく植物化学分野のシンポジウムを共催いたしました。

創業100年に向け、当社は世界一の植物化学企業を目指すスタートラインに立っています。時代と環境の変遷に柔軟な思考と行動が可能な専門家として一人ひとりが変遷をいち早くとらえ、対応し、新たな道を切り拓くことが求められています。常磐植物化学研究は人を育て、環境経営を実践することで百年企業を目指します。



創業70周年記念誌の刊行



創業70周年を記念する事業の一つとして、これまで常磐植物化学研究所へお力添えくださった方々のご縁に感謝し、70名からの寄稿をまとめた、創業70周年記念誌「縁」を発行いたしました。当社にゆかりのある方々からの貴重なお話をご寄稿いただいたほか、「単に利益のみを目的とせず、一半の力を植物化学の発展に投ずる」という当社趣意書に沿い、植物化学への感謝とさらなる発展の願いを込め、日本の天然物化学・生薬・植物化学で先導的役割を果たしている先生方からメッセージをいただきました。常磐植物化学研究所のこれまでの歩み、そして植物化学分野への思いが詰まった一冊となりました。



創業70周年記念事業



創業70周年記念シンポジウム



創業70周年記念事業の一環として、「植物化学研究の基礎と展開」をテーマに、植物化学研究会と「第56回植物化学シンポジウム・(株)常磐植物化学研究所創業70周年記念シンポジウム」を共催いたしました。



日時 : 2019年11月19日(火) 10:00~18:40
会場 : 東京大学薬学部総合研究棟講堂、会議室(東京都文京区本郷7-3-1)

【プログラム】

第1部 特別講演: ノースキャロライナ大学特別教授 李 國 雄氏
共催者講演: 常磐植物化学研究所 代表取締役社長 立崎 仁

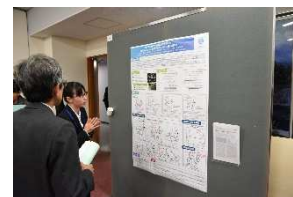
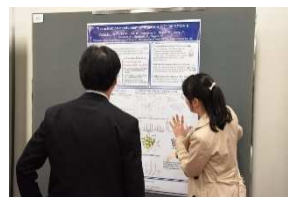
第2部 招待講演 理化学研究所 中林 亮氏
奈良先端科学技術大学院大学 准教授 峠 隆之氏
株式会社ツムラ 大淵 勝也氏
京都大学 教授 山口 信次郎氏
名古屋大学 教授 吉田 久美氏

第3部 ポスターセッション・懇親会

【松尾仁賞】

植物化学シンポジウム初となるポスターセッションでは、学生・若手研究者による発表が行われ、参加者による活発なディスカッションが行われました。

優秀な発表者3名には、国立衛生試験所(現国立医薬品食品衛生研究所)第12代所長として戦後の薬剤師制度の基礎を確立しただけでなく、弊社を創業し、さらに日本大学に日本初の工学部薬学科の創設にも貢献した松尾仁博士の名前を冠した「松尾仁賞」が贈られました。



教育への取り組み

当社は実験講座、体験実習を通じて科学が身近にあることを体感してもらい、次世代の科学技術系人材の育成の貢献に取り組んでいます。

戦後初の植物化学企業として、製品の販売だけでなく、科学発展の一助になればと考えています。

子どもが科学技術に親しみ、学ぶことができる環境や科学技術に才能を有する子どもを見出し伸ばすことができる環境を提供するため、理数学習の充実に努めています。



小学生向け実験教室



佐倉市立根郷小学校: 実験教室

小学生向けの理科教室を2009年から継続して実施しています。1月28日に根郷小学校の理科クラブの生徒さんに、「植物成分を味見してみよう！植物の色を調べてみよう！」という実験教室を行いました。

今年は、植物から得られた成分の味や色の性質を、実験を通して学びました。甘草の甘さに驚きの表情を浮かべたり、ブルーベリーの色の変化を真剣に観察したりしている子供たちの姿がとても印象的でした。30分という短い時間でしたが、今回の実験教室は、科学についてさらに興味を持つきっかけになったようです。



高校生向け「佐倉アカデミア」



千葉県立佐倉高等学校: 佐倉アカデミア (SSH指定校)

2012年から行っている佐倉アカデミアも7月9日に第8回を数えました。千葉県立佐倉高等学校の皆様が来社し、工場施設の見学及びハーブ園の見学をした後、植物成分の精製・植物の色について講義・実習を行いました。ハーブ園では様々なハーブを味覚や嗅覚も使って体感したほか、実験では自分たちで果実をすり潰して果汁を絞り、色素成分を実際に抽出・精製しました。精製した成分の色を変化させる実験では、鮮やかな色の変化を逃さず記録しようと、みな一生懸命撮影をしていました。今回の実験を通じて少しでも科学や植物化学に興味をもってください、理系の進路や植物化学の研究者など志すきっかけになればと考えています。



教育への取り組み



大学院での講義



東京大学大学院: 講義「食品物理化学」

5月28日、東京大学大学院講義「食品物理化学」に、立崎社長が非常勤講師として登壇しました。タイトルは「植物化学と機能性食品開発」です。

植物化学分野の概要に始まり、機能性表示食品制度と当社の取り組み、代表的な製品の開発プロセスなどについて、体験談なども交えながら講義が行われました。学生の皆さんはメモを取りながら、熱心に聴講していました。講義が終了した後も個別の質問も寄せられ、皆さんの関心の高さがうかがえました。



海外の大学との交流

モンゴル国立大学: アジア青少年サイエンス交流事業

10月15日、JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)の2019年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)の一環として、モンゴル国立大学の学生6名・先生1名と、ホストを担当されている東邦大学の先生2名が会社見学に来社されました。ビデオやスライドでの会社説明のあと、研究室や工場設備、ハーブ園を見学いただきました。みなさん専攻は植物化学と異なるものの、機材や設備、ハーブ園の植物などに興味津々で質問が絶えず、とても賑やかな見学会となりました。



社会・環境への取り組み

当社は、美化活動やハーブ園の開放、エコアクション21 (EA21)の活動を通じ、地域・社会への貢献、環境への取り組みを推進しています。



周辺美化活動

2007年11月より開始し3月の活動で134回をかぞえました。おそろいのジャンパーを身につけ、2012年11月(第49回目)からは美化活動に加え「挨拶で地元を元気に！」の合言葉の下、挨拶運動を開始しています。



防災訓練

本社では年1回、全員参加の防災訓練を行っています。今年も12月27日に行いました。社員一同、実際に訓練用消火器を操作して、取り扱い方法を再確認しました。



日本橋薬祖神への奉納

10月17日に日本橋の薬祖神で薬祖神祭が行われ、薬への感謝と、一年の無病息災をお祈りしてきました。今後も、歴史ある日本橋の薬祖神社の発展に協力してまいります。



地域消防団への参加

佐倉市消防団第4分団に参加しています。佐倉市の防災訓練に参加すると共に歳末警戒活動などを通じて、火災予防を呼びかけています。



献血

5月15日と9月13日に従業員が献血に協力しました。この献血は就業時間中に従業員が自由に参加できることから、一番協力しやすい社会貢献の一つとして、実施しています。



社会・環境への取り組み



ハーブ園を通じたお客様との対話



本社工場に隣接した佐倉ハーブ園では、一般の植物園では見かけることの少ない有用植物を含む、100種類を超える西洋ハーブや東洋ハーブを無料で見学していただいています。また、Facebookを通じて情報を提供しています。



<お客様の憩いの場として>

毎月1回、グリーンアドバイザーの皆様とともにハーブ園を整備する日を設け、様々なハーブの植え付けや収穫、切り戻し、株上げなどを行っています。皆様、楽しみながら取り組んでいただいています。ハーブに関するレクチャーや、寄植え体験などのワークショップも開催しています。

<ハーブを身近に感じてもらう活動>

ハーブにまつわる体験型のワークショップを行うなど、ハーブを身近に感じていただく様々な活動にも取り組んでいます。春の寄植え体験や夏のブルーベリー摘取りなどの、四季折々の体験教室のほか、JR佐倉駅のロータリーへの植栽、公民館での出張園芸講座の開催、海外からバラの育種家の方をお招きするなどの活動を行いました。



佐倉チューリップフェスタへの協賛



印旛沼のほとりにある佐倉ふるさと広場で開催される、「佐倉チューリップフェスタ」に協賛しています。前年の11月に植えた球根が芽吹き、4月に咲きそろいました。4月には切り花体験イベント、5月には球根の掘り取りを行い、11月には次の年に向けて2700球の球根を植え付けました。



薬用植物に関する情報提供



佐倉ハーブ園HP内の「薬用ハーブ辞典」では、29種類の西洋ハーブや東洋ハーブについて、学名、成分、概要、生理活性等の情報を提供しています。

植物成分に関する情報の発信を通じた薬用植物の有効利用へ、今後も内容を充実させていきます。

→詳しくは「佐倉ハーブ園」で検索ください。



社会・環境への取り組み



エコアクション21(EA21)

常磐植物化学研究所は、環境経営を実践するために、環境省が策定したガイドラインである「エコアクション21認証登録制度」に登録し、自らの環境への取り組みを推進しています。

またエコアクション21に参加する事で、地域環境の取組みも積極的に行っています。

エコアクション21とは、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的・効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、活動し、継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。

エコアクション21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を審査し、認証・登録する制度がエコアクション21認証・登録制度です。



®環境省
エコアクション21



EA21 環境方針

わたしたちは地球環境問題を重視し、次の項目を経営課題として取り組みます。

1. 環境経営体制の強化 環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを強化します。
2. 脱地球温暖化に向けた省エネルギー及びCO₂排出削減の推進 エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。
3. 循環型社会のための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の推進 廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、化学物質使用量削減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。又、グリーン購入の推進に努め、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。
4. 環境関連法規の遵守 環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。
5. 環境方針の周知と社内教育の推進 地球環境と共栄していくために、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。また、薬用植物の栽培と教育を推進し、薬用植物の保全に貢献します。
6. 地域の人々との共生 地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2020年4月1日

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役社長

立崎 仁

社会・環境への取り組み



EA21 登録事業所の概要・環境経営組織図

事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地 <https://www.tokiwaph.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 技術部 技術課 課長 : 酒井 裕介
担当者 EA21事務局 : 嶋田 典基 TEL 043-498-0007

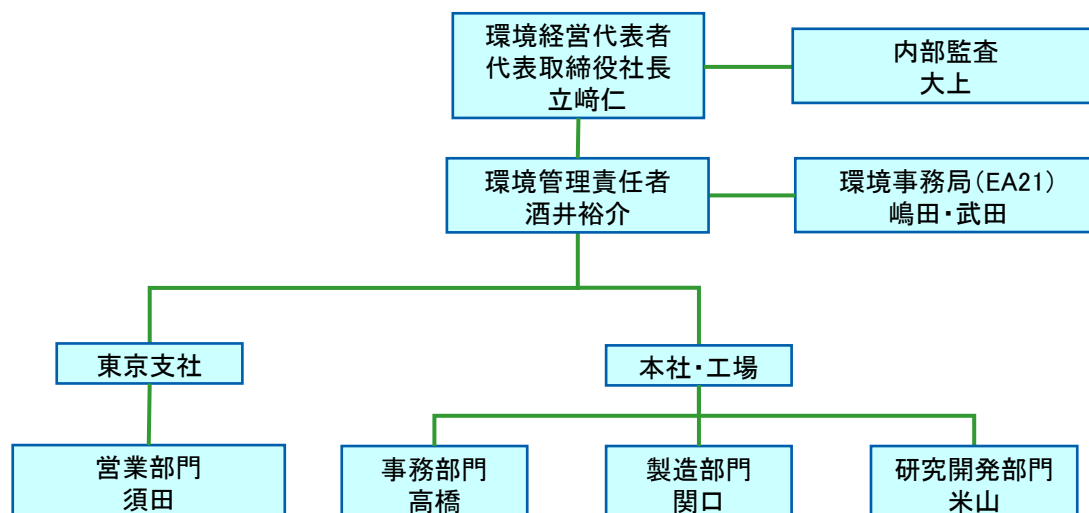
事業内容(認証・登録の範囲)

認証・登録番号:0003872
認証・登録年月日:2009/07/13
認証・登録事業者名:株式会社常磐植物化学研究所
対象事業所名:本社・工場、東京支社
所在地:千葉県佐倉市木野子158番地
事業活動内容:医薬品原薬、化粧品原料、機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売

事業規模

資本金	7,750万円		
主要製品生産量	183 t/年		
従業員	本社・工場 100名	東京支社 14名 (2019年4月1日現在)	
工場延べ床面積	本社・工場 9,296 m ²	東京支社 138 m ²	

環境経営システム組織図



社会・環境への取り組み



EA21 環境活動の取組計画と評価

■ 中期目標 (2019年～2021年)

項目		基準値 (2018年度実績)	2019年度	2020年度	2021年度
本社・工場	環境経営効率の向上 二酸化炭素排出量(売上比)の節減	100%	96% [4%向上]	90% [10%向上]	84% [16%向上]
	二酸化炭素排出量(電力)の節減	1,270 t-CO ₂	1,258 (1%節減)	1,245 (2%節減)	1,232 (3%節減)
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	2,299 t-CO ₂	2,184 (5%節減)	2,069 (10%節減)	1,954 (15%節減)
	環境経営効率の向上 一般廃棄物(売上比)の削減	100%	99.5% [0.5%向上]	97% [3%向上]	95% [5%向上]
	一般廃棄物の削減	36.8 t	36.4 t (1%削減)	36.2 t (1.5%削減)	36.0 t (2%削減)
	食品廃棄物リサイクル率の維持	98.0%以上	現状維持	現状維持	現状維持
	環境経営効率の向上 総排水(売上比)の削減	100%	99.5% [0.5%向上]	97% [3%向上]	95% [5%向上]
	総排水量の節減	75,869 m ³	75,110 m ³ (1%削減)	74,351 m ³ (2%削減)	75,869 m ³ (3%削減)
	化学物質・エタノール回収率維持	回収率80%	80%以上	80%以上	80%以上
	東京支社	環境経営効率の向上 二酸化炭素排出量(売上比)の節減	100%	96% [4%向上]	90% [10%向上]
二酸化炭素排出量(電力)の節減		7,030 kg-CO ₂	基準値を維持	基準値を維持	基準値を維持
一般廃棄物量の管理		263 kg	現状維持	現状維持	現状維持
総排水量の管理		111 m ³	現状維持	現状維持	現状維持
全社	グリーン購入の推進 新規品目	2	1品目以上	1品目以上	1品目以上
	購入見直し	-	1品目以上	1品目以上	1品目以上

2019年度環境目標及びその実績

項目	年度	全 社			本社・工場			東京支社		
		2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量(電力)の節減 [目標値]	t-CO ₂	1,400 [1,334]	1,336 [1,330]	1,406 [1,265]	1,394 [1,328]	1,329 [1,324]	1,399 [1,258]	6.9 [6.3]	7.4 [6.3]	6.9 [7.0]
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 [目標値]	t-CO ₂	2,530 [2,520]	2,299 [2,513]	2,321 [2,184]	2,523 [2,525]	2,530 [2,520]	2,321 [2,184]			
二酸化炭素総排出量の節減 (対売上比)	変化量 (%)	-1.4	-15.6	+6.7						
年間電気使用量	千kWh	2824.9	2894.9	2967.1	2811.0	2880.1	2953.2	13.9	14.8	13.9
一般廃棄物の削減 [目標値]	総量 (t)	38.1 [38.4]	37.1 [38.2]	41.2 [36.6]	37.9 [38.1]	36.8 [37.9]	40.8 [36.4]	0.26 [0.30]	0.26 [0.30]	0.42 [0.26]
産業廃棄物の削減 [目標値]	総量 (t)	111.8 [72.9]	306.6 [72.2]	100.6 [72.2]	111.8 [72.9]	306.6 [72.2]	100.6 [72.2]			
総排水の節減 [目標値]	総量 (m ³)	86,941 [105,519]	75,980 [104,443]	92,723 [75,221]	86,850 [105,419]	75,869 [104,343]	91,621 [75,110]	91 [100]	111 [100]	102 [111]
総排水の節減 (対売上比)	変化量 (%)	-30.6	-20.2	+25.0						
化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質 変化量 (%)	-38.1	+119.6	+4.3	-38.1	+119.6	+4.3			
グリーン購入の推進 [目標値]	追加 品目数	5 [4]	0 [4]	0 [2]	3 [3]	0 [3]	0 [1]	2 [1]	2 [1]	0 [1]
食品廃棄物リサイクル率の維持 [目標: リサイクル率80%以上維持]	リサイクル率(%)	98.3	99.4	99.1	98.3	99.4	99.1			
参考/製品の拡売	生産量(t)	156	113	114	156	113	114			
	上段: エキス製品 下段: 液剤製品	107 107	70 70	50 50	107 107	70 70	50 50			

社会・環境への取り組み



EA21 環境活動の取組計画と評価

2019年度 省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み評価

本社・工場

取組内容	達成状況	評価（結果と今後の方向）
環境経営効率の向上 二酸化炭素排出量(売上比)の節減	目標: 96.0 % (4%向上) 実績: 106.7%	利益率の高い製品製造で工場稼働率が高くなり使用量が増加したが、売上として大きく伸びなかった。生産に対するエネルギー使用量を定期的に報告し、対策を講じる。
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・休憩時間中の照明の消灯・エコプロ導入電気使用量削減	目標: 1,277 t-CO ₂ 実績: 1,399 t-CO ₂ 109.5%	工場稼働時間が長くなったため、排出量が増加した。生産品目によって排出量は年度ごとに替わることから主力品目について集中して管理・目標設定を行う。
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 ・エコドライブ運動の推進・蒸気潜熱低減、ボイラー管理強化	目標: 2,299 t-CO ₂ 実績: 2,321 t-CO ₂ 100.9%	工場稼働時間が高くなり電気および水使用量が増加しているが、本項目については目標をほぼ達成しており、前年に更新したボイラーの効果が現れた。
環境経営効率の向上 一般廃棄物(売上比)の削減	目標: 99.5 % (0.5%向上) 実績: 114.7 %	書類整理の実施に伴い、廃棄量が増加した。会議のペーパーレス化など使用量削減を進める。
一般廃棄物の削減 ・消耗品の購入管理 ・分別BOXの管理、リサイクル意識向上	目標: 36.8 t 実績: 40.8 t 110.8%	月毎の実績では目標を大きく下回ることがなかったが、累積値としては未達となった。定期的な報告を実施し、実績管理を行う。
食品廃棄物のリサイクル率の維持	目標: 98.0 %以上 実績: 99.1 %	目標を達成した。引き続き管理を実施していく。
環境経営効率の向上 総排水(売上比)の削減	目標: 99.5 % (0.5%向上) 実績: 125.0 %	利益率の高い製品製造で工場稼働率が高くなり使用量が増加したが、売上として大きく伸びなかった。生産に対する排水量を定期的に報告し、対策を講じる。
節水 ・各工場への節水教育・退出時の見回り実施、節水意識向上	目標: 75,869 m ³ 実績: 91,621 m ³ 120.7%	前年は生産品目の都合上、総排水量は減少していたが、工場稼働率が高くなったため、使用量が増加した。水使用量についても生産品目によって年度ごとに替わることから主力品目について集中して管理・目標設定を行う。
化学物質・エタノール回収率維持 ・PRTR対象化学物質使用量の確認 ・分析機器移動層の適正量調整 ・移動相使用量削減に向けたHPLC分析法の確立 ・エタノール回収量の把握と管理 ・残渣乾燥機のランニングコスト管理	PRTR法対象化学物質 目標: 2.0 %減 実績: 4.3 %増 エタノール 目標: 回収率80%以上 実績: 79 %回収	前年と比べると、目標値を達成出来なかったが過去の傾向から削減努力を継続しつつも使用量の管理・維持に重点をおく。 エタノール回収量について把握・管理など具体的な対策を引き続き立案し、実行する。

東京支社

取組内容	達成状況	評価（結果と今後の方向）
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・エアコン設定温度の管理・未使用機器の電源を切る	目標: 7.03 t-CO ₂ 実績: 6.91 t-CO ₂ 98.3%	目標値を達成しており、活動を継続していく。
一般廃棄物の削減 ・裏紙使用によるコピー用紙の削減・書類の紙媒体削減	目標: 263 kg 実績: 424.4kg 161.3 %	書類整理に伴い廃棄量増加した。会議のペーパーレス化など削減努力を継続する。
節水 ・節水の周知徹底、節水機器の設置・退出時の見回り実施	目標: 111 m ³ 実績: 102 m ³ 91.9%	目標値を達成しており、活動を継続する。

全社

グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標: 1品目追加 実績: 0品目追加 0%	新規購入を推進したが目標を達成出来なかった。グリーン購入品利用率を算出し、購入担当者のみでなく、購入承認者にも利用率を定期的に報告することで購入検討を促す。
---------------------------------------	------------------------------	--

総括（全体評価と見直し内容）

基準年度に対して、工場稼働時間が伸びたため二酸化炭素排出量（電気）および水使用量は目標を下回った。一方で二酸化炭素排出量（燃料）は前年度並みを維持しており、前年度に更新したボイラーの効果によって工場稼働時間が伸びつつも目標をほぼ達成したと考えられる。EA21活動の目標設定において年度ごとの生産品目、稼働状況など当社工場の特徴を反映させた目標設定を行なう必要性が示された。各目標については年間生産量、期間などから主力製品にフォーカスして設定することで、継続的に数値を捉えることが出来、改善点などを見出しやすくする必要がある。また、各数値について四半期ごとに報告を行い、対策を迅速に講じられるようにする。

社会・環境への取り組み



EA21 2020年度 環境活動計画

2020年度 取り組み予定

	項目	取り組み内容
本社・工場	二酸化炭素排出量(電力)の削減	■ 省電力機器の検討・導入による消費電力の削減
	二酸化炭素排出量(燃料)の削減	■ 蒸気配管の保温、ドレーントラップ・安全弁の点検・交換 ■ 蒸気効率利用教育訓練の受講
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物量・分別の管理
	産業廃棄物の削減	■ 産業廃棄物量・分別の管理
	食品廃棄物リサイクル率の維持	■ 食品廃棄物の分別の徹底及び管理
	総排水量の削減	■ 工場内の水漏れの定期点検 ■ 工場用水の使用量の把握と管理
	エタノール回収率維持管理	■ エタノール使用量・回収率の把握と管理
	化学物質使用量の管理	■ 原料・資材等の在庫量・使用量の把握と管理 ■ 試薬・試液等の在庫量・使用量・排気量の把握と管理
	環境配慮製品の開発・販売促進	■ 再生品数低減のための課題の把握と教育
東京支社	環境経営効率の向上[売上の向上]	■ 新規顧客開拓 ■ 国内外展示会出展
全社	グリーン購入の推進	■ 購入品の把握と継続的な購入推進 ■ HACCP管理義務化に伴う購入品目の見直し

環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

違反、訴訟等の有無: 下記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は80%以上を維持できています。なお関係当局からの違反等の指摘は、過去9年間ありません。

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価	環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
悪臭防止法	スプレー乾燥機、残渣乾燥機	○(届出、測定)	フロン排出抑制法	冷蔵、冷凍コンテナ等	○(該当機器の調査・点検)
温対法	全事業所	○(定期報告)	食品リサイクル法	食品廃棄物	○(定期報告、リサイクル率 99.4%)
下水道法	全事業所	○(定期報告、測定)	家電リサイクル法	対象家電機器	○(廃棄実績の確認)
工業用水法	工業用井戸	○(許可、定期報告)	PRTR法	第一種指定化学物質	○(管理)
工場立地法	本社・工場	○(届出)	労働安全衛生法	本社・工場	○(健康診断、環境測定)
省エネ法	全事業所	○(届出、定期報告)	毒劇物取締法	毒物、劇物	○(管理)
浄化槽法	浄化槽	○(届出、定期点検)	公害防止組織法	本社・工場	○(届出)
消防法	工場、蒸留塔、地下タンク貯蔵所など	○(届出、測定)	容器包装リサイクル法	容器包装資材	○(申込み)
振動規制法	工場設備	○(届出、測定)	高圧ガス保安法	高圧ボンベ等	○(管理)
騒音規制法	工場設備	○(届出、測定)	自動車リサイクル法	自動車	○(確認)
大気汚染防止法	ボイラー等	○(届出、測定)	化審法	既存第二種監視化学物質	○(管理)
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物	○(定期報告、マニフェスト管理)	肥料取締法	堆肥場	○(届出、測定)

代表者による評価と見直し

総括

2018年にガスボイラー設備への投資を決め、同年9月から新設備を稼働させてきた。しかし、生産量の増加に伴う二酸化炭素排出量が増加し、廃棄物量も増加傾向にあり、期待された省エネ・省資源効果を得るに至らなかった。化学物質もまた使用量が増加し、エタノール回収にも課題を残す結果となった。東京支社においても、一般廃棄物が増加し、改善すべき状態にある。新年度は、組織を改め、初心に帰り、環境経営に取り組むと共に、SDGs、ESGに掲げる重要事項をエコアクションに統合し、全社でサステナビリティ経営に取り組む方針。

社会・環境への取り組み



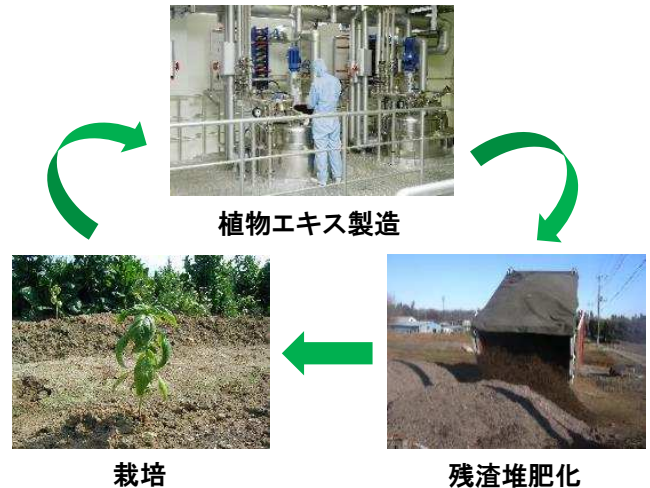
EA21 環境活動取り組み例

【ゼロエミッション活動】

植物資源を無駄なく使用し、廃棄するものを少なくすることにより、環境への負荷を軽減します。

植物エキスの製造後に排出される搾りかす、及び排水処理場の余剰汚泥を肥料へリサイクルするなどの取り組みを行っています。

リサイクルされた肥料は作物の栽培に利用され、新たな植物資源を生み出しています。



【水質に配慮した生産活動】

工場での水資源の無駄づかいをなくすための改善を積み重ねるとともに、使用後の排水をきれいに自然に還すために水質保全に取り組んでいます。

工場に併設されている排水処理設備においては、「活性汚泥処理法」を採用しています。微生物が排水の汚れである栄養成分を食べることにより、汚れを取り除いています。

【グリーン調達・グリーン購入】

グリーン調達とは、原材料・資材・設備などの購入に際し、有害物質を含まない、資源が有効に活用されている、など環境に配慮した物品・サービスを優先的に選択することです。

持続可能な社会の構築のために、使用する物品について、環境負荷ができるだけ小さい原材料・資材・設備等の購入をめざします。

【マイ箸・マイコップの使用】

昼食時にはマイ箸・マイコップを使用しています。割り箸・紙コップの使用が当たり前だった以前に比べ、エコ意識が高まっていることを実感しています。



働きやすい環境づくり

一人ひとりがやりがいと誇りを持って働くことができるよう取り組んでいます。



女性の活躍支援

女性の活躍支援に取り組んでいます。新任管理職への研修などを実施。女性がこれまで以上に活躍できる職場環境づくりを展開してきました。お子様の成長に合わせて、柔軟に時短勤務制度を取り入れています。

【2019年度実績】

女性管理職割合:23%

育児休業制度利用者数:3名

育児短時間勤務制度利用者数:3名



ワークライフバランス

長時間労働の削減と、休暇の取得促進に取り組んでいます。朝または夕方における2時間休暇や、月に2度のノー残業デーの実施、年に1度のハッピーファミリーデー(有休にあわせてお食事券)を付与する取り組みを継続しています。



キャリア支援

OJTを通じ自立型人材を育成します。全ての社員に成長する機会を与えられるよう階層別、テーマ別研修を設けています。最近では、管理職のヒューマンスキルを高める研修や新人・若手社員の早期戦力化に向けた研修に力を入れています。



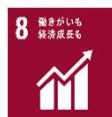
人と人が繋がる職場づくり

会社組織で働く上で重要であるのは、社員がお互いに尊重し合い、認め合うことです。社員全員が同じ文章を読み、感想を述べ合い、美点重視で意見交換をする、「社内木鶏会」を実施しています。それぞれの考え方を尊重し、認め合うことで、仕事をする環境がより良いものになっています。



夢応援制度

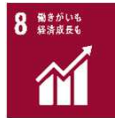
高度な趣味や特技に挑戦する社員を応援する「夢応援」制度を実施しており、3月末までに8件の報告がありました。



働きやすい環境づくり



新入社員歓迎tokiwaフェスタ



社員一同から、ドライフラワーとケーキ、新人さんたちへのメッセージ「笑顔通信」をプレゼントし、みんなでおいしい焼肉などの料理を楽しみました。



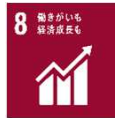
クラブ活動(軟式野球部・茶道部)



当社では野球部や茶道部といったクラブ活動が行われています。特に野球部では、健康保険組合主催の大会に出場し、個人賞を5ついただきました。



社員旅行



7月20日は、社員旅行で伊豆を観光しました。竹林の小径や韮山反射炉を巡り、最後は運よく、雲海の中に浮かび上がる富士山を見ることができました。



70周年記念富士登山



9月1日に、創立70周年を記念して、社長をはじめ有志の社員12名で、富士山登頂に挑戦しました。登頂するにはとても厳しい天候でしたが、一致団結し、全員登頂することができました。



年末レクリエーション



年末最終日には毎年恒例の餅つきを行っています。つきあがったお餅は切り分けられ、お供え用の鏡餅の他、きな粉もちやお雑煮にいただきます。一年の労をねぎらい、お正月を迎えます。



労働安全・衛生への取り組み

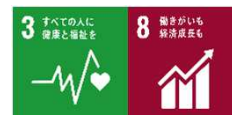
従業員が安心して働けるよう、労災事故件数0(ゼロ)を目標に、安全な職場づくりに取り組んでいます。

☆人の健康と安全はすべてに優先し、労災事故ゼロ化活動に取り組んでいます。

☆一人ひとりの安全意識の向上、設備面・作業面のリスク低減にむけた活動を継続しています。



労働安全衛生に関わるマネジメント体制



厚生労働省の指針に基づく、労働安全マネジメントシステムに沿い、安全な職場づくりに取り組んでいます。毎月「安全衛生委員会」を開催し、「リスクアセスメント」による潜在的リスクの低減活動を中心に、全員参加の安全衛生活動を推進しており、労働安全面のさらなる向上に取り組むとともに、メンタルヘルスに重点を置いて衛生・健康面の取り組みを強化しています。また、5S活動、安全ルールの遵守、リスクアセスメントの徹底、教育・支援の強化、災害撲滅のPDCAサイクルの確実な実行に努めています。

安全衛生状況確保のための教育

- ・労働安全教育(外部講師を招いての安全教育(AED使用方法、救命救急講習など))
- ・リスクアセスメント担当教育
- ・各工程におけるリスクアセスメント教育
- ・機械操作によるリスクアセスメント教育
- ・技能講習・特別教育の受講
- ・外部講習への参加

自主的な安全衛生管理の向上

- ・安全衛生基準の設定
- ・安全衛生委員会会議の実施
- ・全国安全週間、全国労働衛生週間、長期連休明け社内独自安全週間の設置
- ・安全衛生委員の構内巡視と従業員への安全遵守
- ・フォークリフト特定自主点検の実施
- ・保護具着用の徹底
- ・作業手順の周知と遵守

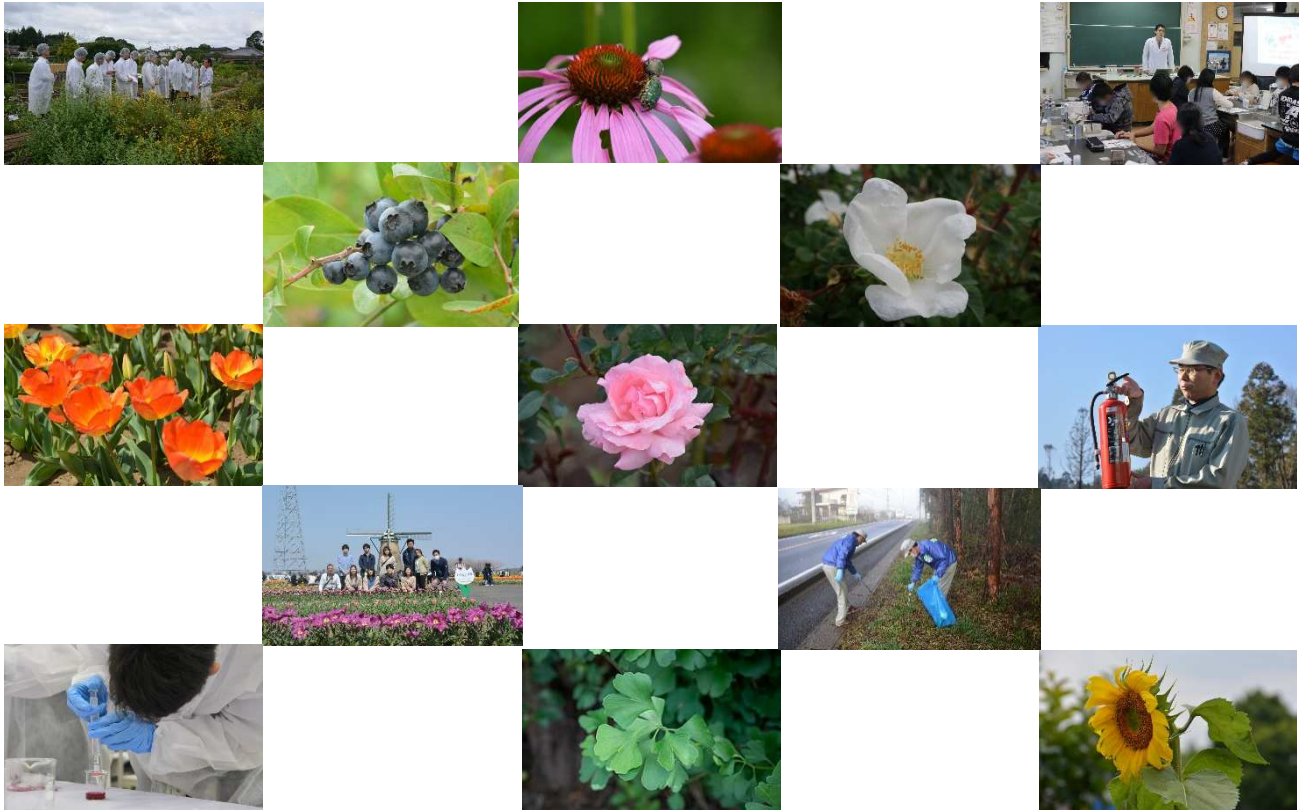
健康の保持促進と快適な職場環境の形成

- ・ストレスチェックの実施
- ・ノー残業デーの設置
- ・労働時間管理、長時間労働者の状況確認とヘルスケアサポートの推進
- ・産業医との健康相談窓口の開設
- ・5S活動の実施
- ・熱中症予防対策の実施および熱中症が疑われる場合の迅速な対応

資格取得促進法令遵守

- ・危険物取り扱いに関する資格取得の奨励
- ・フォークリフト技能講習





tokiwa
PHYTOCHEMICAL

株式会社常磐植物化学研究所 サステナビリティレポート2020
(社会・環境活動レポート2020)

株式会社常磐植物化学研究所 <https://www.tokiwaph.co.jp/>

本社/工場: 〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158番地

TEL043-498-0007 Fax043-498-0561

東京支社 : 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6階

TEL03-5200-1251 Fax03-5200-1256

